

令和4年度 第1回 静岡市生物多様性専門家検討委員会 会議録	
開催日時	令和4年6月30日(木) 14時00分から15時30分まで
開催場所	あさはた緑地 センターハウス 会議室
議題	(1) 令和3年度リーディングプロジェクト実施状況報告について (2) 令和4年度新規事業の進捗状況について
参加者	(委員) 秋山信彦委員、加藤英明委員、小南陽亮委員、諏訪哲夫委員、 増澤武弘委員、三宅隆委員 (事務局) 佐藤暢久 環境創造課長(環境創造課) 石塚浩史 エコパーク推進担当課長兼課長補佐(環境創造課) 北澤直己 自然ふれあい係長(環境創造課) 宮川聡美 主査(環境創造課) 村松恵利子主任主事(環境創造課) 八木 駿 主事(環境創造課) 望月 健 主査(中山間地振興課) 杉本眞悟 副主幹(緑地政策課)
配布資料	委員名簿・座席表 静岡市附属機関設置条例(抜粋) 資料1 第2次静岡市生物多様性地域戦略 進捗管理一覧表 資料2 令和3年度 静岡市生物多様性地域戦略リーディングプロジェクト 進捗状況等個票 資料3 第2次静岡市生物多様性地域戦略 全体スケジュール【計画期間：2021～2030年度】 参考 ・令和4年度セミの抜け殻観察会チラシ ・生きもの元気通信 vol.1 「園内で簡単にできる♪ビオトープ」 ・令和4年度市民生きもの調査員養成講座 in 麻機遊水地チラシ

1. 開会

○増澤委員長：

- ・オンライン会議が多い中、対面で直接お話をする素晴らしい機会。
- ・第1次の時は生物多様性をどのようにするのかというのが大きな流れだった。第2次の内容が検討されていくわけだが、生物多様性は当たりまえに使われている。逆に、最近は、生物・群落・森を扱っているとんでも生物多様性という言葉で説明してしまう状況も出てきている。リニアでも生物多様性がメインのキーワードとなっている。生物多様性を進める我々には何がしかの責任があるのでしっかりしたものを作っていきたい。
- ・それでは、議事に入りたい。(1)について、事務局から説明をお願いする。

2. 議事

(1) 令和3年度リーディングプロジェクト進捗状況報告について

○事務局（宮川）

次第3-(1) 令和3年度リーディングプロジェクト実施状況報告について事務局より説明いたします。

令和3年度4月より、第2次地域戦略がスタートいたしました。新規事業も始まり、1年が経過しましたので、第2次地域戦略の初年度である令和3年度の、各リーディングプロジェクトについて実施状況を報告いたします。

資料1「第2次静岡市生物多様性地域戦略進捗管理一覧表」をご覧ください。

令和3年度から始まった、第2次地域戦略では、リーディングプロジェクトとして、これら21事業を進捗管理していきます。左から三列目に「前戦略からの継続性」として、新規事業、継続事業を記載しています。また、「最終目標（2030年度）」欄に10年後の目標を記載しています。

前地域戦略と大きく異なる点は、一番上の成果指標を定めている点です。「生物多様性の保全」、「生物多様性の主流化」の2本について、3年ごとに評価を行っていきます。

令和3年度の実績については、右から3列目、4列目に実施状況とその評価をまとめております。評価は、「◎」が目標達成、「○」が概ね達成、「△」が要対策、「×」が達成困難、「－」が未達成となっております。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、イベントや学習会など目標に届かなかった事業もありました。

それでは、資料2「令和3年度静岡市生物多様性地域戦略リーディングプロジェクト進捗状況等個票」をご用意ください。こちらの資料に従って、新戦略の初年度でもありますので、駆け足になりますが、すべての事業についてご説明いたします。

①南アルプス地域、保全・再生プロジェクト

No.1 シカの食害対策推進による高山植物の保護として、防鹿柵の設置及び高山植物の調査を実施しております。指標となる『南アルプス主要地域(千枚小屋周辺)の高山植物種数』を計画では15種と定め、令和3年度は13種が確認されました。(4)にもある通り、調査の限界もあり、評価は「○」概ね順調としました。

No.2 南アルプスにおける自然環境・生態系保全事業については、『南アルプス動植物環境調査の実施と公表』が指標となっております。令和3年度も委託による調査を実施しその結果を市ホームページでの公表しており、評価は「◎」目標達成としました。

No.3 高山植物保全活動の担い手育成事業では、『市内の高校山岳部の生徒を対象とした「南アルプス高山植物保護セミナー」の参加者数』を指標としていますが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、令和2年度よりそれまでの現地での体験学習の開催ではなく、オン

ラインで勉強会として実施しており、計画より多い67名が参加したため評価は「◎」目標達成としました。

②里地里山、保全・活用プロジェクト

No.4 放任竹林対策の継続的な実施事業では、『維持管理協定締結団体数』を指標としていますが、計画を上回る5団体と協定を締結することができました。これは10ページ(3)にありますとおり、補助金額の引き上げについて積極的な周知を行ったことによるものです。また、竹林整備ボランティア団体の声をうけ連携と情報共有の場として「放任竹林対策連絡会議」を初めて開催しました。さらに、竹林整備隊も引き続き実施していきます。

No.5 里地里山における保全・再生活動の推進では、計画の80回に対して78回の竹破砕機の貸出しがあり、評価を「○」概ね順調としました。

No.6 放任竹林の整備推進では、『伐採面積』を指標としていますが、計画の1ヘクタールに対して、0.8ヘクタールの実施があり、「○」概ね順調としました。

No.7 緩衝地帯の整備推進放任竹林の整備推進では、『緩衝地帯の整備面積』を指標としていますが、「◎」目標達成としています。

③外来種対応の適正化推進プロジェクト

No.8 特定外来生物調査・対応では、『特定外来生物の調査・対応実施回数』を指標としていますが、対応状況は、18ページ上にあります(1) R3年度までの取り組み状況のとおりです。出勤と伐根、調査の延べ回数が計画を上回ったため、「◎」目標達成としています。

オオキンケイギクは、令和3年度より新たな取り組みとして6月に職員70名による一斉伐根を実施しました。

No.9 市民協働の特定外来生物調査・駆除では、『市民協働の調査・駆除回数』を指標としていますが、実績を「○」概ね順調としました。

20ページ(1)をご覧ください。

カミツキガメは5月に麻機遊水地第3工区で定期調査を実施し、調査の中では発見されていません。(3)にありますように、あさはた緑地管理事務所主催のイベント「めざせ! あさはたマスター!!」へ講師として職員を派遣し、主催者への指導と小学生の受講者への講義を行いました。このイベントは令和4年度も開催されており、今年度も職員を派遣しています。

オオキンケイギクは足久保地区の住民との河川敷における一斉伐根を実施しました。令和4年度も実施しています。また、河川アドプトプログラム登録団体にオオキンケイギクの周知を行いました。

No.10 特定外来生物の情報収集・発信では、『しぜんたんけんてちょうの閲覧数』を指標としていますが、計画を大幅に超える閲覧数となったため、

「◎」目標達成としています。20ページ(1) R3年度までの取り組み状況にありますとおり、サイト内の「しぜんたんけんマップ」を改修し、外来生物についてなど選択項目ごとにマップを検索できるようにしました。さらに動画も掲載できるようになりました。イベント情報がトップページで見やすくなったり、キッズページを新たに作成したりしています。

④まちなか自然ふれあい活動推進プロジェクト

No.11 まちなかにおける自然観察会の実施では、『セミの抜け殻調査参加者数』を指標としています。令和3年度は体制整備の年ですが、24 ページ（1）R3 年度までの取り組み状況にありますとおり、中央図書館との連携により実施し、34 名の親子が参加しました。講師の鈴木先生が市内で行っているその他の市内のセミの抜け殻調査と併せた結果を「しぜんたんけんてちょう」で公開しています。

No.12 まちなかにおける環境保全活動の推進では、『河川環境アドプトプログラムの登録団体の延べ活動回数』を指標としていますが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け活動回数が大幅に減少したため、進捗評価を「△」要対策としています。

No.13 麻機遊水地における自然ふれあい活動の推進では、『麻機遊水地における自然観察会の実施回数』を指標としていますが、こちらも、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け事業の中止、規模縮小を余儀なくされていますが、一定の回数は実施されているため、評価を「○」概ね順調としました。

No.14 地域団体等への緑化支援では、『花苗等配付による緑化支援団体数』を指標としていますが、一定の団体に対し配布が実施されているため、評価を「○」概ね順調としました。

⑤幼児期からの環境教育推進プロジェクト

No.15 環境学習指導員の派遣事業では、『幼児を対象とした学習会の指導員派遣回数』を指標としています。令和3年度は計画の20回に対して、こども園、幼稚園等への派遣が33回行われたため、評価を「◎」目標達成としています。令和元年度は12回、令和2年度は24回でしたので、着実にこども園、幼稚園等での利用が進んでいます。

No.16 沼上資源循環学習プラザにおける環境学習の実施では、『環境学習の実施回数』を指標としています。令和3年度は、計画の50回に対して、76回実施されたため、評価を「◎」目標達成としています。こども園や幼稚園、小学校等を対象に出張事業も実施されています。

No.17 環境大学におけるリーダー育成では、『環境大学の修了者数』を指標としています。令和3年度は、計画の15名に対して、20名が修了したため、評価を「◎」目標達成としています。

No.18 こども園等に対する環境教育情報の提供では、『「生きもの元気通信」の発行回数』を指標としています。令和3年度は、翌年度からの発行にむけての準備期間としたため、評価を「○」概ね順調としました。タイトルは、地域戦略の「しずおか生きもの元気計画」にあわせ、「生きもの元気通信」としました。38 ページ（1）令和3年度までの取り組み状況にありますとおり、今年度からの発行にむけ、静大、常葉大より「幼児期における生物多様性学習プログラムの開発」をテーマに幼児が取り組むことのできるプログラムのご提案をいただきましたので、令和3年度にいくつかのこども園で実践してきました。子ども達と実際にやってみて、写真や動画の材料を集めるとともに、こども園の先生の声を参考にして作成しています。

⑥環境モニタリング等の推進プロジェクト

No.19 水生生物のモニタリング調査では、『水のおまわりさん参加者数』を指標としています。計画の1,000名に対し、1,449名の参加があったため、評価を「◎」目標達成としてい

ます。調査の様子をしぜんたんけんてちょうで紹介しています。

No.20 自然観察会における生きもの調査では、『環境学習参加者数』を指標としています。計画の 100 名に対し、43 名の参加があったため、評価を「×」達成困難としています。42 ページ（1）令和 3 年度までの取り組み状況にありますとおり、これは、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け「シロウオの観察会」については、当初予定していた現地での観察会を中止とし、オンライン開催へと変更したこと、「海浜植物観察会」運営主体だった学生サークルの活動が出来なくなったため、令和 2 年度から観察会の開催を中止していることによるものです。「海浜植物観察会」は、代替措置として、東海大学の教員協力のもと、海浜植物を紹介する動画を制作し、静岡市公式 YouTube チャンネルにて公開しました。申し訳ありません、隠れてしまっていますが、6 月 27 日現在の再生回数は 469 回です。

No.21 市民参加による生きもの調査では、『市民生きもの調査員の登録者数』を指標としています。令和 3 年度は体制整備の年ですが、44 ページ（1）にありますとおり、「市民生きもの調査員養成講座」を実施しました。各分野の専門家をお招きし、全 6 回の講座とし、初年度である令和 3 年度は、24 名が講座を修了しました。

事務局からの説明は以上となります。

意見聴取、質疑応答

○増澤委員長

21 項目説明していただき、すべてに評価が載っているわけだが、今の説明に対して、ご意見ご質問等あったらお願いしたい。

○小南委員

No. 3 高山植物保護セミナーの参加者について、市内高校の登山部とあるが、1 校だけか。

○環境創造課

市内の 5 高校、静岡高校、静岡東高校、静岡雙葉高校、静岡聖光学院、清水東高校に声を掛け、それら 5 校がオンラインで参加した。当初は 5 校各 4 名で合計 20 名程度が現地での参加の予定だったが、令和 3 年度はオンライン開催だったため、この人数（67 名）となっている。今年は現地開催を予定している。

○小南委員

わかりました。

○増澤委員長

これは、評価が◎になっているが、本来現地へ行って達成されたら◎で、やはりオンラインでやった場合は本来の目的通りやっていないわけなので、内容はちゃんとやっているが、◎ではないのではないかと私は思う。先生方どうか。

○小南委員

現地に行ってほしい。

○増澤委員長

これは、概ねやったということで、○でいいのではないか。もともとの計画が現地のものなので、現地へ行ってやれば◎だが。

○環境創造課

はい。そう思います。

○小南委員

逆に、オンラインでやるならば登山部でなくてもよいということ。現地に行くから登山部に声をかける。

○増澤委員長

現地といっても結構普通の人でも行ける状況のところ。私個人の意見としては、登山部にこだわることはなくて、生物部、ワングル、地学部等の子どもたちが行った方が、幅が広がるのではないか。

○環境創造課

今年度すぐということではないが、各高校へご挨拶に行く中で、生物部等の参加は可能か聞き取りを行った。スケジュール次第では行けるとい学校、目指しているところが違うので難しいという学校があった。たまたま清水東の登山部の副顧問が生物部を見ている。参加しやすいのではないか。

○諏訪委員

生物部という話があったが、生物部は今ほとんどなくなってしまっているのではないか。

○環境創造課

清水東高校、静岡高校にはある。静岡雙葉高校は不参加ということでまだ聞き取りをしていない。聖光学院は今年で登山部がなくなるので難しいとのこと。静岡東高校はこれから挨拶へいく。

○増澤委員長

清水東の登山部の副顧問は生物学科卒業。ほかにはいかがだろうか。

○加藤委員

南アルプスの環境調査を実施していて、その結果について、専門家の先生方からのご意見等はいただいているのか。

○環境創造課

調査を行う場所・生物・植物は、専門家の先生方、こちらの三宅先生などに相談して、ど

こをやるか、方法だとかをご指導いただいている。その結果を踏まえての公表まではいっていない。

○増澤委員長

この結果が出たというのは、別紙となっている3ページ（確認された高山植物の内訳）の話だろうか。しかし、5ページ（南アルプスにおける自然環境・生態系保全）の方は調査項目だけあって結果は書いてないが、これは、三宅先生が内容を見ているということか。

○三宅委員

いや、最初の調査の時に、この辺でこんなことやるがどうだという相談があった。

○環境創造課

はい。実施前に、三宅先生はじめ専門家の方にご相談をして、今年の調査する項目などをご指導いただいているところ。

○三宅委員

最近の生物調査は、ほとんど環境DNA。

○増澤委員長

今の加藤先生のご質問は、この時やった調査結果を専門家に見てもらっているのかということだが、今現在の結果はまだ示されていないのか。

○環境創造課

近日に発表予定。

○加藤委員

やはり問題があるかどうか。調査結果から、今後どう課題になるかというところも踏まえて、せっかくデータが出ているので、大事にしていければいいのではないか。

○環境創造課

はい、わかりました。

○増澤委員長

ほかにいかがか。今回評価が出ているが、先生方は×は×の評価でよろしいか。

○秋山委員

この○△×の評価だが、×の表現が達成困難とされているが、まだこれからやることなのに、達成困難と捉えられてしまう。これは令和3年度はできなかったなのであって、未達成と表現を変えた方がよいのではないか。

○環境創造課

ご意見をいただいたとおり、表現について改めさせていただきたい。

○秋山委員

先ほど話に出たオンライン実施の事業は◎になっていたが○ではないかということになったので、オンライン実施のものは○にするなど統一感を持たせほうがよいかもしれない。

○環境創造課

はい。シロウオの観察会が、コロナ対策として現地ではなくオンライン上で実施されているが参加者が少なく、指標の100名には届かないので、担当者と相談の上×にした。

○秋山委員

いや、評価は×でもいいが、×の説明が達成困難でなければいいと思う。一部中止にもなっている。だから×と中止(一)と二つにしてはどうか。事業が3つあって海浜植物は全くやらなかった。プランクトンはやって、シロウオはオンラインに変えた。どう評価するのがよいのか。

○環境創造課

これは令和12年度までの計画であり、達成困難というと将来にむけても達成できないという意味で伝わってしまうので、達成困難という言葉については考えたい。

○秋山委員

そうですね。

○増澤委員長

31ページの幼児教育(環境学習指導員の派遣)について、立ち上げ時に随分苦勞して、予備調査し、いろんな過程を経てここまで来たが、このプロジェクトとして、大変新しいものを始めた。20回の計画が33回と思った以上の実績になっている。本当にこんなに反応があったのか。本当にというのは、もうぜひやりたいということなのか、聞いておくことなのか、その中身を知りたいと思っている。

○環境創造課

今週の月曜日、環境教育に関する会議があり、こども園の先生が来ている。そこで先生が言うには、今まで大変熱心にやっていた先生がいたので環境教育をやっていたが、その先生が抜けてしまった途端に終わってしまった。あるいは、その先生の影響を受けた人が、まだ引き続き、頑張ってくれているといった話があった。やはり人によるところが大きいと感じている。

○環境創造課

個人的な印象だが、幼児教育、保育の現場では、なかなか環境学習や自然とのふれあいに

ついでに専門的な知見のある方がいない。事業の周知が進んだ結果、園長会等でよい評判が口コミで広がったのではないか。

○増澤委員長

昨年までの、準備段階をみていると、苦労してここまで持ってきている。まさかこんなに大勢の子供たちが、環境教育に接してくれるとは予想していなかった。この33回というのは、場合によって、花丸ではないか。

○小南委員

回数は出ているが、こども園数がない。市立のこども園12回となっているが、園数となるとどうなるのか教えてほしい。熱心な園が何回も参加しているのかもしれない。そうではなく、利用している園数とそれぞれの全施設数に対する割合を知りたい。

○環境創造課

手持ちの資料では、利用した施設名が確認できないため、後日提供させていただきたい。

○小南委員

指標はこの回数でいいが、裏面の資料等に、市内の認定こども園数、たとえば市立何園、市立何園のうち何園が使っているのか入れてほしい。また今回の内数を次回で良いので教えてほしい。

○環境創造課

おっしゃるとおり例えば全2回講座ということで複数回利用している園もあるため確認し、次回提供する。

○諏訪委員

No.12 人河川アドプトプログラムについて、これは河川環境に限定したアドプトプログラムということになるのか。

というのは、先日市から、環境公社と関連してアドプトをやりたいという話があり、今ではほとんど絶滅したミヤマシジミの保全が難しいので、ほかに何かないかという相談を受け気になった。

○環境創造課

環境創造課で実施しているアドプトプログラムは、森林環境と河川環境と自然環境の3つであり、No.12の河川環境アドプトプログラムは、河川の清掃活動が中心のもの。

今の先生のお話は、自然環境のアドプトプログラムで、環境公社が行っているミヤマシジミの保全のことではないか。餌となるコマツナギが市内で減っており、その保全ができないかという相談がある。自然環境アドプトプログラムの件につきましては、今後またご相談させていただきたい。

○諏訪委員

ということは、このリーディングプロジェクトの中では、自然環境アドプトプログラムは関係しないのか。

○環境創造課

生物多様性地域戦略のリーディングプロジェクトには含まれていない。自然環境アドプトプログラムは、活動団体が2団体しかない。市内全域で活動を実施している状況にはないためリーディングプロジェクトにはなっていない。

○諏訪委員

わかりました。

○三宅委員

No.21 生きもの調査員だが、昨年度麻機遊水地で養成講座が実施されたが、卒業生は今も市に関係して活動しているのか。

○環境創造課

市民生きもの調査員には、今年度は麻機遊水地での指標種を対象とした生き物調査に主に参加していただく予定で計画を検討している。その他、市主催のイベントや各種団体、あさはた緑地主催のイベント情報提供している。それぞれ興味のある方が個別に参加している状況。

○三宅委員

去年養成講座を受講した人が、今年調査員として活動しているということか。

○環境創造課、要請

はい。去年養成講座を受けた方が、今年度から調査員として申請をして登録している。登録制度が始まったのは今年度からであり、活動も今年度からとなっている。

○増澤委員長

もう1つ関連して、環境大学の方の卒業生は、どのように活躍しているのか。秋山先生も関係しているが、少しは自然環境について活躍する場が与られているのか。

○環境創造課

本日は、ごみ減量推進課が欠席しておりますので、代わって回答すると、36ページ(3)市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取り組みがあり、環境大学修了生によるしずも一る沼上での環境学習講座の実施について記載されている。その他については、ごみ減量推進課に確認の上、後日提供したい。

○増澤委員長

はい、わかりました。

続いて（２）令和４年度、新規事業の進捗状況について事務局から説明をお願いします。

（２）令和４年度新規事業の進捗状況について

○事務局（宮川）

次第３－（２）にあります令和４年度新規事業の進捗状況について事務局より説明いたします。

資料３は、リーディングプロジェクトの１０年間の進め方と事業展開です。左からリーディングプロジェクト名、全戦略からの継続性、実施内容、令和３年度及び令和４年度、来年度以降の計画、そして、一番右に、リーディングプロジェクトごとの１０年後に目指す姿となっています。

2021～2023年度を実施した後、赤い線で示してある通り、１回目の見直しを実施します。その後、３年後、４年後にそれぞれ見直しを行い、2030年度には、１０年間の成果を踏まえ、次期地域戦略を策定します。

今年度は、中ほどの2022（R4）年度の欄の計画に基づき事業を進めております。令和３年度の実績を青字で、今年度の内容で、新規のもの、変更のあったものを赤字で記載しております。

①南アルプス地域、保全・再生プロジェクト

今年度も引き続き、高山植物の保護や調査、担い手育成を実施していきます。

No.3 高山植物保全活動の担い手育成事業では、『市内の高校山岳部の生徒を対象とした「南アルプス高山植物保護セミナー」』を、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、令和２年度よりオンラインで勉強会として実施していましたが、令和４年度は現地セミナーを開催する予定です。

②里地里山、保全・活用プロジェクト

今年度も引き続き、放任竹林対策や、緩衝地帯の整備により、里山の保全を行ってまいります。

No.6 放任竹林の整備推進では、令和４年度は事業の見直しを検討しております。これまで、整備団体支援として毎年１ヘクタールを委託業務による伐採を行ってきましたが、実際に生活被害を受けている地域の自助を支援する事業としていきたいと考え、放任竹林が多い地区の自治会を対象とし、当課や地域総務課にて周知、実施希望の有無の聞き取りを行い、「竹林整備スタートアップ事業」として、市が最初の１回のみ皆伐での整備を行い、その後の維持管理を自治会等が行うことで、地域課題を地域住民自らの手で改善できるようにする事業としたいと検討を進めております。

また、令和４年度は、道路部の事業となりますが、地域創生の拠点として「トライアルパーク蒲原」が整備されており、パーク内の園路に、竹林整備に取り組むボランティア団体から提供された竹チップを使用した舗装材を試験的に施工しています。

③外来種対応の適正化推進プロジェクト

特定外来生物を中心に、情報収集、現場確認、駆除を実施しております。セアカゴケグモは、令和4年度は初めて、委託による防除を実施する予定です。引き続き、市職員による現場確認や駆除を行うとともに、今後は市民と協働で駆除作業を実施や、市政出前講座での啓発、しぜんたんけんてちょうへの掲載など、外来生物駆除の必要性を市民に対し広く発信してまいります。

④まちなか自然ふれあい活動推進プロジェクト

No.11 まちなかにおける自然観察会の『セミの抜け殻調査』は、令和4年度は体制整備となっておりますが、参考としてお持ちしたチラシのとおり、令和3年度同様、中央図書館との連携により調査イベントを実施します。今年度も城北公園の調査結果だけでなく、講師である鈴木先生が実施した市内10数か所の調査結果とあわせて公表することで、地域による比較や経年変化が分かるようにする予定です。このデータは参加者に送付するとともに、しぜんたんけんてちょうにも掲載します。

これらのまちなかで市民の方が気軽に活動に参加できる事業については、リニューアルイベントの開催がわかりやすく閲覧できるようになった、しぜんたんけんてちょうを利用し募集の周知を行うとともに、活動の様子も積極的に発信していきます。

No.12 まちなかにおける環境保全活動の推進については、周知を図るため、市民自治推進課が運営する市民活動のポータルサイト「ここからネット」に『河川環境アドプトプログラム』の参加募集に関する記事を掲載する予定です。また、現在活動を自粛している団体に対し、活動を再開してもらえよう声掛けを行っていく予定です。

⑤幼児期からの環境教育推進プロジェクト

No.15 環境学習指導員の派遣について、指導員研修を初心者向けの内容とスキルアップと2回開催し、指導員のレベルアップを図っていくとともに、活動の場の創出を検討します。

No.17 環境大学におけるリーダー育成について、令和3年度は「自然」「廃棄物」の2つのコースの選択式にしたが、どちらの講座も受講する受講生が多かったため、今年度は1つにしました。また、今年度新規内容の講座を3つ設けています。

No.18 こども園等に対する環境教育情報の提供についてですが、「生きもの元気通信」の作成については、発行への準備をするなかで、幼児教育プログラムをこども園にて実践し、その中で撮影した写真や動画を使ってこども園の先生が取り組みたくなるような内容のプログラムを発信したいと考えました。

参考資料としてお持ちしましたが、創刊第1号として、園庭が小さなこども園でも、生きものを飼育し観察できるように、簡易的なビオトープづくりを紹介しています。子どもたちの反応や、先生の声掛けが分かるように、QRコードをつけ、動画でも一連の流れを見られるようにしています。こども園の先生に、「意外と簡単に取り組める」と感じてもらい、日常的に自然とふれあえる活動に取り込むことを推進していきます。

また、現場の先生方に気軽にご意見をいただける仕組みを検討しています。

⑥環境モニタリング等の市民参加推進プロジェクト

No.20 自然観察会における生きもの調査の東海大学との連携事業ですが、コロナの影響か

ら海浜植物観察会は取りやめとし、プランクトン観察会は感染対策に十分配慮したうえで8月に実施し、シロウオの観察会は3月に実施する予定です。

No.21 市民参加による生きもの調査については、参考としてお持ちしたチラシにもありますとおり、令和4年度も生きもの調査員養成講座を実施しています。今年も各分野の専門家をお招きし、全6回の連続講座として50名以上の応募者のなかから選ばれた高校生から60代までの23名が受講しています。現在第3回までを実施しました。

また、令和4年度より市民生きもの調査員制度をスタートしました。これは、養成講座の修了生等が申請により市民生きもの調査員として登録される制度です。現在14名おり、登録者には調査員証を渡すとともに、行政や市民活動団体が行う調査、イベント、研修、保全活動等の情報を「生きもの調査員通信」として提供しています。

その他、今年度新たに、麻機遊水地周辺にて、調査員と共に指標種の調査を行う予定です。専門家の先生のご指導を受けながら、これまでの専門家検討委員会で検討し決定した麻機遊水地における指標種について調査をしていきます。調査方法や時期など詳細な調査方法については種ごとに検討が必要かと思しますので、個別に相談させていただきます。よろしくをお願いします。

事務局からは以上です。

意見聴取、質疑応答

○増澤委員長

説明ありがとうございました。ご質問、ご意見をぜひいただきたい。

○増澤委員長

新規事業であるNo.18「こども園等に対する環境教育情報の提供」について、今年度「生きもの元気通信」は年4回発行とあるが、結構な労力になる。どなたが主としてやるのか。

○環境創造課

制作は、当課の自然ふれあい係の職員が行う。今後は、草木染、カブトムシ、味噌づくりについて情報提供しようと考えている。いずれも大学からご提案いただいたプログラムを去年こども園等で実践したものを取材しているので、それを基にまとめる予定。提供先は、市立こども園、私立認定こども園、私立幼稚園、私立保育所の全て。メールを送付している。

○増澤委員長

それは100園くらいになるのか。

○環境創造課

市立こどもが約50園、私立園が約200園で、約250園くらいになる。

○増澤委員長

そうすると、環境創造課の職員だけで、これをやっていくのか。

○環境創造課

そうなります。

○増澤委員長

大変ですね。

○増澤委員長

説明の際に、はっきり山岳部とだけ言っていたが、今年から生物部や、その他の部を加えるのではなかったか。連日、生物部に声を掛けていると思うがいかがか。

○環境創造課

今後の展開として、生物部の生徒の参加に向けて、現在学校に働きかけをしている段階。今年も登山部の生徒が対象となる。

○増澤委員長

今年も生物部の生徒は全く参加しないのか。

○環境創造課

今年も来年度以降参加してもらえるよう働きかけを進めている段階。

○増澤委員長

そうですね。ついでに、生物部以外でも、音楽や、美術部の高校生でも、鹿柵を含めこういう保護セミナーに出たいという高校生がいたら、ぜひ幅広くすべきだと私は思っている。来年度からどうかという話を今年するのは遅いような気がする。

○環境創造課

登山をしなければ、スニーカーで登山靴まで用意しなくてもいい、カッパはある程度のものが必要という話をしている。保護者の理解も必要なので、段階を踏んで、今年声をかけて来年度からということで動いている。

○増澤委員長

わかりました、登山をするというと、親はすごく心配するが、私はあの程度は登山と言わないのではないかと思います。人によってではあるが。千枚に行くだけだし、行かない年もある。鹿柵をちゃんと目的通り作って、そこで勉強して戻るといった内容。山岳部や登山部の実力や装備がなければできないことではないと私は理解している。来年度から頑張りましょう。

○環境創造課

なるべく参加してもらえるよう進めていく。

○三宅委員

No.8「特定外来生物調査・対応」について、アライグマでは、14回出動して5頭を捕獲と

あるが、これは市民からの通報を受けて、とりあえずカメラを掛けて確認してワナを掛けているのか。

○環境創造課

ご質問について、まず敷地内でアライグマを見た等の市民からの相談があって、初めてワナを置く。モニターを設置したりはしていない。

○三宅委員

ワナの設置は市がやるのか。

○環境創造課

市職員が直接やるわけではないが、ワナの設置から駆除まで市が行う。

○三宅委員

それで、今マップの作成、どこでとれたかというのは全部あるのか。

○環境創造課

マップとの連携は、現在ホームページの改修を進めており、今後反映させていこうと考えている。しばらくお待ちいただきたい。

○増澤委員長

5頭とれたのであれば、5点はマップに落としてほしい。はい中山間地振興課どうぞ。

○中山間地振興課

個票に載っているのは、環境創造がやっている部分だけ。中山間地振興課は、一般的な被害防止目的の有害捕獲許可をやっている。令和3年度は125頭取っている。これについて、細かいポイントはなく、俗にいうメッシュで出すという形。蒲原、由比、興津川周辺のほか、ぽつんぽつんと日本平で出ている印象。メッシュデータであれば提供できる。

○三宅委員

1キロメッシュか。

○中山間地振興課

ハンターマップで出しているので1キロメッシュ。

○増澤委員長

ほかにいかがか。今年度は今説明あった体制で動くわけだが、できるだけ先生方にご意見をいただいとくと、仕事がうまくスムーズに進むのではないかと思う。

○三宅委員

オオキンケイギクは、花の咲く時期になると際限なく咲いていて、一部だけ駆除してもなかなか効果的でないのかという気がしている。撲滅するまでやれるのか疑問。市としてどう考えるか。

○環境創造課

オオキンケイギクの一斉伐根については、昨年度初めて全庁的な取り組みとして、道路部、都市局と協力して実施した。今年も約70人が参加し、市内7箇所で行っている。ただおっしゃるように、この体制でいつまでやっても撲滅することできないと思っている。市民参画や自治会と連携しながらやれる可能性があるのか、去年始めたばかりなので、我々のやっていることの効果を検証しつつ今後の展開について研究していく。

○諏訪委員

指標種調査を行うという話になったが、詳細はこれから決めるということ。そこで、どの程度の規模でどの程度やるのか。それから時期が非常に微妙で、先になると指標種がいなくなってしまう心配も起こるので、早く決めていただきたい。どのくらいの規模で、どのくらい人が行かなければならないかってことが気になる。

○環境創造課

今現在、具体的に話が進んでいるのは、三宅先生に参加いただいている「モニタリングサイト1000里地調査」に登録予定のカヤネズミ調査と、静岡県鈴木先生のご協力をいただき秋に魚類の調査を行う。今年度は、時期の決め方が難しく、試しにどういったものかやってみようという形。冬に鳥類についても野鳥の会の皆さんと一緒にできればと考えているところ。

○諏訪委員

昆虫については、今年は調査はなさそうか。

○環境創造課

昆虫については、同定が難しいが、今年ご相談させていただいたうえで、来年度以降実施できればと考えている。

○増澤委員長

ほかにいかがか。昨年度、カミツキガメは2匹捕獲したということだが、非常に減少しているという理解でよいか。麻機で1頭、藁科川で1頭とのことだが。

○環境創造課

専門の加藤先生がいらっしゃるのでも、見解をお聞きしたいが、市としては、今のところ市内での爆発的な繁殖は確認できていないと認識している。

○増澤委員長

加藤先生いかがでしょうか。モニタリングは、捕獲0頭の年があったとしても、当然続けた方がいいと思う。

○加藤委員

そうですね。カミツキガメがいれば、ワナを仕掛けて捕まえるということが大事。これは麻機遊水地でカミツキガメの捕獲調査をしているということを多くの方に知ってもらい、通報してもらおう。広い市内のどこに潜んでいるかはわからない。2頭捕まえられたのが、多いか少ないかは、現状何匹いるのかわからないのでなんとも言えないが、市民から通報があって確保するという連携が浸透してきているのがよい。これが最後の2匹で終わればよいが、何匹いるかわからないところで市がずっと数多くのワナをあちこちに掛けていても、労力がかかるので、麻機遊水地については、定期的に調査を行いつつ、市民の通報で確保できているということが評価できるのではないかと。

○増澤委員長

ほかはいかがでしょうか。事務局は、特にこの先生にこれを伺っておきたいということがあれば、きちんと聞けば聞くほど一年間いい仕事ができるんじゃないかと思う。いかがか。確かあったはずですが、なければ終わります。

○環境創造課

はい、市民による市域全体での生きもの調査について、まだ詳しい内容が定まっていないため、先生方にぜひご意見をたくさんいただきたいところ。ただ、市として準備がまだまだ必要なことから、今年度第二回を12月ぐらいにやれればと考えている。

○増澤委員長

はい、わかりました。それではこれで終了する。司会を事務局の方にお返しする。

○環境創造課

委員長、委員の皆様は、長時間にわたり誠にありがとうございました。今回この場でいただいたご意見については次回の委員会で報告させていただきたい。なお、今年度は先ほど話がありましたとおり、二回目を12月ごろに予定している。詳しい時期については改めてご連絡させていただく。

以上持ちまして、令和4年度第1回生物多様性地域戦略専門家検討委員会を終了する。ありがとうございました。